

議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	平成30年2月5日(木) 19:00～21:00
場 所	徳島大学病院大会議室（中央診療棟5階）
出 席 者	滝沢会長、寺嶋部会長、武知委員、多田委員、片岡委員、佐藤委員、町田委員、片山委員、郡委員、鎌村委員、福川委員、東山委員、荒瀬委員、答島委員(田上)、山村委員、米川委員、水田委員、岩下委員 ※（ ）は代理出席者〔敬称略〕
欠 席 者	井下委員、安藤委員、藤原委員、武田委員、豊田委員、八木委員
陪 席	徳島大学病院：鈴木副看護部長、三木看護師長、小林副課長、古田専門職員 宮越事務補佐員 徳島赤十字病院：島村社会福祉士 徳島県保健福祉部：平田課長補佐 徳島県医師会：大門事務員
議 題	<p>寺嶋部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会（徳島県医師会がん対策推進委員会緩和ケア対策小委員会を兼ねる）が開催された。</p> <p>会議にあたり、滝沢徳島県がん診療連携協議会会長から開会の挨拶があった。また、平成30年2月3日に開催された都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラムに参加した。がん診療連携拠点病院のがん医療の質を向上、都道府県内のPDCAサイクル確保等が議論された。徳島県でも緩和ケアチームの相互訪問など行っており、今後もPDCAサイクル確保のために緩和ケアが充実していただきたい。この会議で色々のご意見いただき話し合いが出来ればいいのではないかとの要望があった。</p> <p>【報告事項】</p> <p>○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会</p> <p>寺嶋部会長から、平成29年12月8日に国立がん研究センターで開催された「平成29年度第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、配付資料に基づき次のとおり報告があった。</p> <p>(議題1) 緩和ケアに関する連絡事項があった。緩和ケア研修会におけるe-learningの導入について年度内に旧指針と新指針での開催について検討する予定である。</p> <p>(議題2) 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の活動報告の紹介があった。都道府県指導者養成研修(緩和ケアチーム研修企画)に来年度、参加をしていただきたいとの要望があった。</p> <p>(議題3) 都道府県内の緩和ケアの質の向上に関する大阪府、福井県、三重県の取り組み紹介があった。福井県では、別紙資料【やわらぎ日記】を作成している。徳島県でも在宅緩和の連携パスの作成に取り組んで行かなければいけない。来年度に作成を目標としたいとの要望があった。</p>

武知委員から、療養のパスは成立するののかとの質問があった。

寺嶋部会長から、難しいが徳島県として取り組んで行かなければいけない。内容も介護支援専門員協会の方にも意見をいただきながら、情報等も取り込んで作成を行いたいとの要望があった。

福川委員から、がんの患者さんが治療をしながら在宅でされている方も多いためパスがあれば便利であるのではないかと。もう少し内容を読み込んで提案ができればとの意見があった。

片山委員から、緩和ケア領域では難しい。化学療法の患者の支持療法的パスのような感じで使用するのでもいいのではないかととの意見があった。

武知委員から、同じ意見であり賛成であるとの意見があった。

寺嶋部会長から、来年度に数名集まっていたいただき意見を出していきたいとの要望があった。

続けて寺嶋部会長から、三重県でピアレビューへの取組の説明があった。徳島県でも相互評価まではまだ行っていけないが、今年度は可能な範囲で相互訪問を行ったとの報告があった。

(議題4) 地域内の緩和ケアの連携強化について案内があった。

寺嶋部会長から、地域緩和ケア連携調査員研修に徳島県からは徳島大学病院より2名が参加している。今後も研修会を行う予定のため、各病院から参加いただきたいとの要望があった。

○各病院の現状報告

各委員から各施設の現状報告があった。

(徳島大学病院 武知委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームの活動状況として新規依頼も各診療科から受けている。緩和ケア診療加算も毎月100件程度は行っている。苦痛のスクリーニングシートについても配布を行い、回収して介入も行っている。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：平成29年度の緩和ケアの状況として、がんサポートチーム介入数は新規56人、継続患者120件である。緩和ケア診療加算は行っていない。緩和ケアスクリーニングシートについては、対象者の見直しを行った。入院患者に対して配布を行っていたが持参していただく方が少なく、入院後に苦痛がありそうと気になる方に配布を行っている。今後も診療科を拡大していく予定である。

(徳島市民病院 多田委員)

別紙配布資料参照：苦痛のスクリーニングシートは配布を行っており、配布の半分くらいは回収が出来ている。今年度より、病棟看護師が緩和ケアの対象と感じた患者にその場で配布を行っている。緩和ケアチームの活動状況は緩和ケアチームが行ったラウンド件数は437件、実患者数は112名。介入時期についてはがん治療終了後となってきている。これは緩和ケア病棟を設けているからである。依頼内容については倦怠感等の疼痛以外の身体症状が多くなってきている。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：2017年4月～12月の介入は96名。チームへの紹介診療科は外科・呼吸

器科・泌尿器科・婦人科の順となっている。依頼疾患は肺がん・胃がん・大腸がんが多い。依頼項目は家族ケア・退院支援等が増えている。精神症状は少し減っているのはリエゾンチームが動いているためではないかと分析している。緩和ケアチーム介入の転帰は死亡患者数が年間30名、在宅への移行は10名以内である。また、緩和ケア診療加算は2017年から算定を行っている。新しい取組として、セルフチェックプログラムを行い、徳島市民病院・徳島県立三好病院へ見学を行った。

(徳島県立三好病院 寺嶋部会長)

安藤委員が急遽欠席となった。緩和ケア病床は20床あるが平均7～10床程度使用している。緩和ケアチームは常時3～6名程度の依頼があり、その半分は緩和ケア病棟に移られる前の方である。緩和ケア外来は週2回行っている。

(徳島県立海部病院 水田委員)

2006年3月から緩和ケア委員会が活動していたが諸事情により2012年に休止していた。2017年から再始動となり、設置要綱や緩和ケアマニュアルを作成し8月から開始をおこなった。郡委員にも支援をしていただいている。活動としてはオピオイド使用している入院患者を対象として依頼があれば2週間に1回、緩和ケア委員会が訪問を行い、月1回委員会を開催している。当院では在宅診療として訪問診療も行っている。

(阿南中央病院 片山委員)

例年通り入院として12～13人程度で受け入れている。在宅に移行された方もいるが脳腫瘍の方などは長期化する。化学療法中の方で、地元で診て欲しいとの紹介が増えている。

(阿南共栄病院 田上代理)

平成28年度の相談件数は85件であったが、今年度は専任看護師の病棟への異動があり33件と減少している。緩和ケアは2週間に1回疼痛に関するカンファレンスを行ったり、がんリハビリに関するカンファレンスを行っている。消化器がん、乳がんが多いがその他のがんも行っている。

(近藤内科病院 荒瀬委員)

平成28年度の緩和ケア病棟の死亡患者は149名、平均年齢74.3歳、滞在日数は42日、しかし在宅へ移行患者もおり、28名が在宅へ移行。転院も12名いた。今年度は平成30年1月21日迄の件数であるが、死亡患者110名、平均年齢74歳、平均滞在日数30.8日である。緩和ケア病棟は20床であるが地域包括病棟27床、一般病棟8床であるが緩和ケア病棟が満員の時には他の病棟に入院していただき、緩和ケア病床が空いた場合に移動していただいている。紹介率は平成28年度97.3%である。多いのは徳島大学病院、徳島赤十字病院、県立中央病院から紹介を受けている。

(徳島県鳴門病院 山村委員)

毎週水曜日にオピオイド使用中の入院患者を対象に、緩和のカンファレンスを行っている。また、院内でもセミナーを開催している。今後の課題として、カンファレンスの充実(精神科医師に参加していただく)、がんリハビリテーション、院内回診、外来診療、メンバー育成、患者サロン、近隣病院との連携などに力を入れていきたい。

○緩和ケア研修会報告について

寺嶋部会長から、平成29年度末で受講者は945名。徳島県内がん診療連携拠点病院の受講率は92.0%。緩和ケア研修会の両日を1日しか受けられていない未修了者は7名であると

の報告があった。

片山委員から、未修了者はPART2のみ未受講かとの質問があった。

寺嶋部会長から、PART1もPART2もいるのではないかと。未確認であるため再調査を行いたいとの回答があった。

平田健康増進課課長補佐から、混ざっているとの回答があった。

○徳島県医師会 緩和ケア小委員会報告について

寺嶋部会長から、徳島県医師会がん対策推進委員会緩和ケア対策小委員会も委員が重なっているため兼ねている。今年度は平成30年1月14日の午後から緩和ケア研修会フォローアップ研修を開催した。参加者は132名であったとの報告があった。

【協議事項】

○来年度の緩和ケアフォローアップ研修会について

寺嶋部会長から、来年度は緩和ケア研修会におけるe-learningの導入が行われる。現在の各病院の考えとして旧指針と新指針での開催についてどちらを検討しているか意見を伺いたいとの質問があった。

武知委員から、平成30年3月11日に開催される研修会の内容で聞いてから考える予定であるとの回答があった。

徳島赤十字病院島村社会福祉士から、石倉医師より平成30年3月11日に開催される研修会の内容を聞いてから決めたいとの意見を伺っている。どちらでも開催出来る体制ではあるが、e-learningをすべて受講してきていただけるのかとの問題もあるため、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会として決めていただきたいとの意見があった。

片岡委員から、平成30年3月の研修会を受けてみないとわからない。新指針の集合研修を受ける場合にe-learningの修了証書を当日に持ってくるのか、期日を決めて提出していただくのか議論しなくてはいけない。e-learningがいつから可能なのか、量がどの程度あるのか徳島県として新指針、旧指針のどちらで開催するのか決める必要があるとの意見があった。

寺嶋部会長から、徳島県立三好病院は対象が少なかったため、全体の様子を見ながら考えたいとの意見があった。

続けて寺嶋部会長から、研修会の説明会が終わってから決めたいとの要望があった。

【その他】

寺嶋部会長から、徳島県がん診療連携拠点病院間での実施交流について今年度、徳島県立三好病院、中央病院、徳島市民病院がそれぞれ病院訪問を行ったとの報告があった。

片岡委員から、徳島県立中央病院は徳島県立三好病院へ1週間、徳島市民病院へ半日訪問を行った。徳島県立三好病院は緩和ケア病棟を持つ救急病院であり、徳島県立中央病院には緩和ケア病棟がないため、仕事の仕方や緩和ケアに関するあり方が違うことがよくわかり、交流してよかった。とてもよい面があり、勉強になった。県内でも交流会を進めていくべきではないかとの意見があった。

寺嶋部会長から、徳島県立三好病院の看護師が徳島県立中央病院に実施交流を行った。緩和ケアチームのカンファレンス、回診の記録方法、統計などが勉強になったとの意見が

あったとの報告があった。

続けて寺嶋部会長から、徳島県立中央病院の緩和ケアチームと徳島県立三好病院の安藤医師が徳島市民病院に実施交流を行った。緩和ケア病棟の業務やがんサロンの見学を行い大変よかった。徳島市民病院の受入は大変だったのかとの質問があった。

多田委員から、安藤医師が資料を作成しプレゼンをしていただいたので、個人的な意見ではあるが安藤医師が大変ではなかったのかとの回答があった。

寺嶋部会長から、今年後は相互訪問を行った。来年度も引き続き相互訪問を行いたい。そのようなことを繰り返し、ゆくゆくは第三者の監査にも来ていただけるようにしたいとの要望があった。

滝沢会長から、PDCAサイクルの観点から相互訪問が有益であるとの講演を受けてきた。内容については、準備に時間等を費やさないのであることが必要であり、チェックリスト等を作成し使用してはどうか。相互訪問を行う場合は会議室ではなく、現場を見に行き、病院長等の上層部にも参加していただければ今後の活動にも動きやすくなる。また、県の健康増進課担当にもオブザーバーとして参加していただく。ピアレビューなども行うのがよいのではないかと報告があった。今後は以上のことに配慮いただき行っていただきたいとの要望があった。

町田委員から、別紙資料ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムin徳島開催について説明があった。今年度で4回、毎年1回ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの開催を行っているが、4回開催とも徳島県立中央病院が開催で行っている。このプログラムは、緩和ケアについての基本的な知識を習得するための研修会であり、講師を派遣して行っているが、講師費用を現在まで徳島県立中央病院が負担していただいていた。今後も継続して開催を行っていく予定であるが、徳島県立中央病院に負担がかかるため、看護協会にも協力を依頼したが難しく、持ち回りで行うなど検討していただけないかと要望があった。

郡委員から、県立中央病院主催でELNEC-Jの研修を4年前から行っている。去年度、県立中央病院を退職したため、立場も変わり徳島県立中央病院に負担がかかるためお願いをしたい。他県の情報も情報収集を行い、高知県では看護協会負担で行っているとのことでしたので、徳島県看護協会にも相談を行ったが時期的に遅く交渉に至らなかった。出来れば、看護師の質の向上として継続的に行いたいため、提案をさせていただいた。出来れば、色々な施設で開催していただければ参加者も県下全域に広げていけるとの意見があった。

寺嶋部会長から、がん診療連携拠点病院で分担を行い開催出来るのか、持ち回りがいいのかとの質問があった。

小林徳島大学病院医事課副課長から、経費の分担は難しいため、各病院の持ち回り開催でお願いしたいとの回答があった。

鎌村委員から、医療介護総合確保基金と地域医療再生基金では人材育成で予算確保を県から国に上げていくようになるが、各県との競合で国から予算が執行されない場合がある。今後も医師会、看護協会とも検討していきたいとの意見があった。

寺嶋部会長から、来年度は予算が取れなかったことから徳島県立中央病院で開催することとなる。来年度以降、がん診療連携拠点病院が持ち回りで開催を出来ないかと質問があった。

徳島赤十字病院島村社会福祉士から、再来年度は徳島赤十字病院で引き受けたい。講師の人数は10名となっているが減らすことは可能なのかとの質問があった。

郡委員から、工夫すれば可能であるとの回答があった。

徳島赤十字病院島村社会福祉士から、再来年度は徳島赤十字病院で開催するよう予算取りを行いたいとの意見があった。

片山委員から、平成30年2月10日・11日に第10回徳島がん患者のQOL向上を目指したコミュニケーション技術研修会を開催予定である。また、平成31年5月26日に死の臨床研修会中国・四国支部大会が徳島市で開催される予定で、現在演題募集中であるとの報告があった。

寺嶋部会長から、色々な団体から参加されている方に、緩和ケアの取組等について報告をしていただきたいとの要望があった。

郡委員から、徳島県看護協会では緩和ケアの質の向上として、今年度は看取りをテーマに絞り、新人看護師とジェネラリストの研修会、介護施設に務める看護師への基礎編・実践編の研修会、在宅ケア事業アドバイザーとしてリンパ浮腫の研修会を行っている。来年度も質の向上として引き続き研修会を行う予定であるとの報告があった。

岩下委員から、徳島県薬剤師会では在宅ケアに関する研修会を行っているが、緩和ケアに関する研修会は遅れている。今後は、必要な緩和ケアの勉強会を行う方向で考えていきたいとの報告があった。

東山委員から、徳島県歯科医師会では徳島市民病院に歯科医師・歯科衛生士を派遣して入院患者さんの歯科治療・口腔ケア等にあたっている。歯科のないがん診療連携拠点病院には南部・西部に連携室を設けて連携を行っている。緩和ケアに関して歯科単独で研修会は難しく、歯科医師も対象の研修等を開催いただければ案内をいただきたいとの要望があった。

福川委員から、徳島県介護支援専門員協会では独居高齢者・認知症高齢者の方々の高齢化社会を支えていくにも自立支援につなげるケアマネージメントが必要と考えている。今年度、医療報酬改定、障害福祉報酬改定が行われる。入院した時点で、退院支援も始まっている。また、地域の医師との連携も進んできている。また、当協会では「在宅医療サポート介護支援専門員研修」も実施しているとの報告があった。

米川委員から、患者会として参加した。オストミー協会に所属しているがストマーの交換と皮膚ケアに困っている。患者の高齢化で家族が大変であり徳島県内では全国に比べ、皮膚・排泄ケア認定看護師の人数が少なく、増やしていただきたい。また指導者として県内の看護師に指導していただける方を増やしていただきたいとの要望があった。

鎌村委員から、認定看護師の育成にはそれぞれの各分野があり、徳島県内では今年度から糖尿病認定看護師の教育が徳島文理大学で開始された。他の分野に関しては県外に長期間、研修に行っていたらいい。徳島県としては研修費用を補助金で支援を行っている。今後も徳島県としてどのようなことが出来るか検討していきたい。なお、医療介護総合確保基金では募集期間を設けており、各機関や協会に依頼をしている。是非、色々な提案をいただき貴重な財源ですので人材育成等に有効に活用を行いたい。また、緩和ケア研修会について厚生労働省の資料をみるとe-learningを受けてから2年以内に修了書を持って申し込むこととなっている。計画的に行わなければいけないのではないかと意見があった。

寺嶋部会長から、3月の研修会が終わり次第、検討したいとの要望があった。

徳島赤十字病院島村社会福祉士から、平成30年9月においてがん診療連携拠点病院の指定更新申請を行わなければいけない。9月までに緩和ケア研修会を実施していることが求めら

れてくるため、旧指針か新指針かこの場で決めていただきたいとの要望があった。

武知委員から、徳島大学病院は旧指針で開催を行いたいとの要望があった。

片山委員から、来年度は旧指針で開催を行い、再来年度に新指針で行うことにしてはどうかとの意見があった。

武知委員から、賛成であるとの意見があった。

寺嶋部会長から、来年度は旧指針で行い、必ず未修了の方がでないよう注意事項を記載することで開催を行うことでいいかとの質問があった。

出席委員で検討の結果、了承された。

小林徳島大学病院医事課副課長から、ELNEC-Jの研修について2018年は徳島県立中央病院、2019年は徳島赤十字病院の開催となったが、2020年は徳島大学病院での開催で行いたい。2021年は徳島市民病院に依頼し、各病院持ち回りで開催することでよいかとの意見があった。

がん診療連携拠点病院の出席委員で検討の結果、了承された。

寺嶋部会長から、閉会の言葉があり閉会となった。